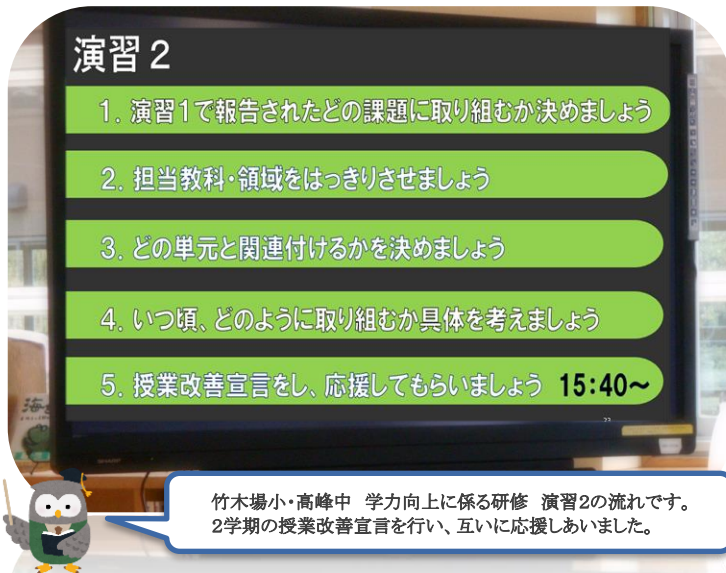


学力向上にかかる校内研修

学習状況調査の結果の把握だけではもったいない！



竹木場小・高峰中 学力向上に係る研修 演習2の流れです。
2学期の授業改善宣言を行い、互いに応援しました。

8月22日、竹木場小・高峰中学校では、2時間30分の学力向上にかかる校内研修を実施しました。

3年連続の校内研修支援依頼です。

H28年度は「言語活動のアイデアを増やそう」と題し、全員で34個の言語活動を確認しました。

H29年度はグループや全体での話合いのスキルを確認し、実際に話合いの体験をしました。

今年度は、実際に学習状況調査の問題を解いてみて、授業にどう生かしていくか、自分のクラスや担当教科で授業のアイデアを考え、授業改善宣言をしました。

調査問題は言語活動や思考力・表現力を高めるための授業改善のヒントが満載です。正答率の高い低いに一喜一憂するのではなく、上手に活用しましょう。

こんな校内研修はいかが？

学習状況調査分析

誤答分析

- ① 児童生徒の強み弱みを把握しましょう。
- ② 解答の仕方のどんなところでつまづいているのか、確認しましょう。
- ③ どの授業でその改善を図るか計画しましょう。



設問分析

- ① 課題のあった問題を分担して解いてみましょう。
- ② 児童生徒のつまづきの原因を推測しましょう。
- ③ 出題の意図を探り、授業改善のヒントを見つけましょう。
- ④ こんな授業をやってみます！宣言しましょう。



模擬授業体験



実際に先生方が児童生徒になって、提案授業を受けてみます。

発問・指示によって児童生徒の思考の流れが変化することや、授業のどこで児童生徒が戸惑うかを予想することができます。

学習指導案検討



学習指導案を作成する段階から、複数人でアイデアを出し合います。一人で考えるより、ずっと有意義な時間になります。

各学校のニーズに合わせて、校内研修の提案ができます。ご相談をお待ちしています。

こんな実態には、こんな授業改善のアイデア

実態①

誤答分析をしてみたら、解答の条件が複数になることで、対応できていない実態が見えてきました。

(A 小学校 **誤答分析**)

実態②

グラフや図表から読み取ったことをもとに解答する設問がどの教科でも出題されていました。(B 中学校 **設問分析**)

授業改善のアイデア①

考え合う過程で児童・生徒が解答(結論)を導いた後に、表現の不十分な点を教師が指摘して、修正する場面を意図的につくりましょう。

授業改善のアイデア②

グラフや図表の読解は、毎年課題として挙げられる設問です。グラフの読み方、解答に必要な着目すべき部分の判断、表現方法など、教科横断的に指導しましょう。

授業のつくりかた

授業をつくる際のステップ例を紹介します。

Step1 年間指導計画を元に、指導事項・内容を確認し、単元で身に付けさせたい力を明確にします。

学習指導要領を活用してください。

Step2 児童生徒の実態を把握します。

学習の系統・既習事項を客観的な視点で押さえます。学年・校種を超えた確認も必要です。

Step3 教材を選びます。

教科書教材を用いることが多いです。必要に応じて補助教材を準備します。

Step4 単元の計画を立てます。

第一次から第三次まで、何時間扱いでどのような力をどのような手順で身につけさせるのかを計画します。ここで、指導事項・内容にどのような言語活動がふさわしいかを考え単元のゴールを決めます。新しい知識の教授・定着・活用のメリハリをつけると、多様な学習活動を設定することができます。単元の計画がしっかりできていれば、本時案の作成は難しくありません。

単元の冒頭で授業の計画を伝えるときに、子供たちに相談し児童生徒のアイデアを加えることで、主体性を仕組むことができます。

指導事項・内容と言語活動を合わせて、児童生徒にとって魅力のある単元名をつけると、授業改善の一歩目が踏み出しやすくなります。

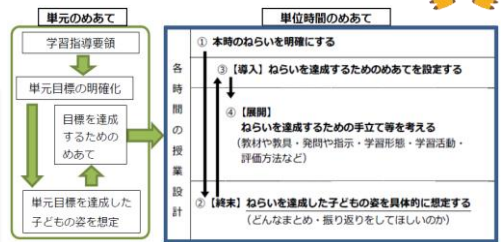


模擬授業研修会には、管内64名の先生方が参加され、単元づくりから始まる授業づくりについて学ばれました。出前授業もできます。



8月3日(金) 模擬授業研修会(武雄会場) 小学校外国語活動

「授業をつくる」には単元を設計することが大切です。下の「学力向上のための手びきQ&A」p2「めあての立て方」にも説明しています。



「学力向上のための手びきQ&A」p2 めあての立て方

言語活動 いろいろ

感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する。

例えば……

観察や見学の結果を記述・報告する。

課題について、事柄を比較する・分類する・関連づけるなど考えるための技法を活用し課題を整理する。

文章や資料を読み、自分の知識・経験に照らし合わせて、条件に沿った表現をする。

様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、わかりやすく表現したりする。

芸術表現・ものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、結果を評価し、工夫改善する。

など

今さら聞けない、「言語活動」って何？

言語活動は、言語による様々な学習活動を指します。(「言語活動の充実に関する指導事例集」H24.6月文部科学省より)

ここでの言語は、非言語や数式・記号などを含む広い意味での言語を表しています。

「事例集」には、言語活動を充実させるために必要なこととして4項目が挙げられています。

- ① 学校の教育活動全体で組織的・計画的に行うこと。
- ② 児童生徒の実態・発達段階に応じて系統的に行うこと。
- ③ 単元に計画的に言語活動を位置付けること。
- ④ 言語活動の役割を踏まえた言語活動の充実を図ること。

児童生徒の実態を把握し、指導事項に合った言語活動を系統的に設定する必要があるということです。たくさんアイデアを持っていれば、多様な言語活動を授業に生かすことができます。